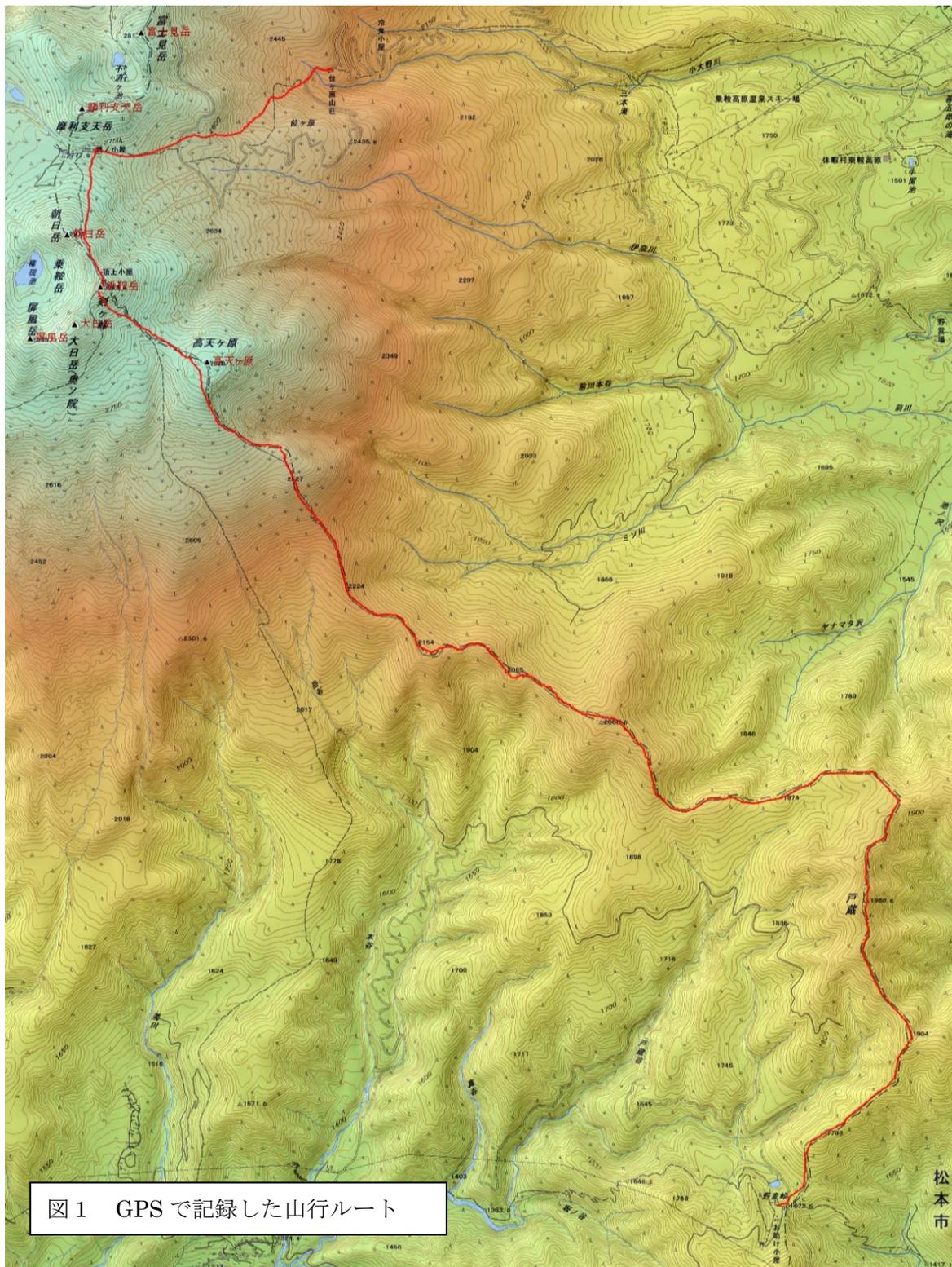


50周年記念山行：乗鞍岳－野麦峠

- 【山 域】 北アルプス 南部 乗鞍岳から野麦峠
【日 時】 2016年4月29日(金)～5月2日(月)
【参加者】 CL 橋本 丈夫、SL 柘植 秀樹、吉川 りつ子、小俣 順子、加藤 洋子、大木 裕見子、富樫 富久美、萱野 香織
【コース】 乗鞍観光センター⇒バスで位が原山荘⇒剣が峰⇒高天原⇒戸蔵⇒野麦峠 (図1)



【報告】

1. 計画

柘植さんから CL を依頼され、計画作成を行った。50 周年記念山行の 2 年目のスタートは少なからずプレッシャーであった。一番の問題点は雪が少ないことである。昨年の連休に同じ県境尾根の記録があり、その報告では剣が峰も雪がない状態であったが、今年のライブカメラでは少な目であるが昨年より多い残雪があったので少し安心していた。（これが判断間違いの元）また県境尾根のコースが使えなければスーパー林道を歩くコースも検討した。特に 2 日目は長いコースなので予備日や予備食を準備した。

2. 装備・食糧

1 週間前から寒気と強風が予想されていたため、防寒装備の追加を検討するように参加者に連絡した。積雪期は、雪を溶かして水を作らないといけないので食事は米と副食はドライ食品である。でも酒とつまみはそんな時でも忘れない。

3. 予想天気

1 週間ほど前から高層の予想（24・72 時間）天気図を入手して検討した。500hPa には -24°C の寒気が下りていた。また本州中部の 850hPa では 20m/s 近い風が予想されている。また移動性高気圧が九州から東進して来るため、移動性高気圧の後面の悪天が何時になるかが注意点であった。最終的には当初の日程を 1 日後ろに変更した。実際の天気は、30 日は晴れ後霰、風強し。1 日曇時々晴れ

4. 山行

4 月 29 日（金）

津田沼駅に 19 時出発の予定であったが、電車の遅れや道路の渋滞でほぼ 1 時間遅れで出発した。やはり休日の午後は想定外のことが生じる。でもその後は渋滞もなくスムーズで、双葉 SA で柘植車と合流する。23 時頃に「道の駅今井恵みの里」に到着して屋根の下に幕営する。

4 月 30 日（土）

「道の駅今井恵みの里」を 5 時に起床し、パッキングを準備する。6 時に道の駅を出発し、バスの出発地である乗鞍観光センターへ向かう。1 時間以上前であるがすぐに並ぶ、ほとんどがボーダー・スキーヤーである。8:30 発の予定であるが、8:45 に 4 台のバスが集団まとまって出発した。9:15 位が原山荘に到着の後、50 周年の横断幕のもと皆で写真撮影する。雪は多くなさそうである。



バスターミナルから乗鞍連峰を望む



位が原山荘にて記念撮影

少し風はあるが快晴である。位が原山荘（9:50）から間もなくして雪道に入る。30 分ほど登った所でアイゼンを着ける。（リーダーとしてはキックステップをもっと身に着けてほしいと思う）上に行

くにつれ風が強くなる。11:35 に肩の小屋の陰で一休み。ここから片斜の斜面を登り、12:40 に剣ヶ峰に到着する。剣ヶ峰は風強く霰とガスで視界はわずか、天気は悪いが横断幕を出して写真撮影する。



元気にスタート



肩の小屋付近で次第に天候悪化



強風の乗鞍剣ヶ峰山頂



高天原付近で見かけた雷鳥

休憩後、山頂から大日岳への鞍部へ続く岩場を下る。鞍部から高天原(14:20)へはハイマツと残雪のガレ場歩きで問題なし。高天原の下りになるとハイマツが大きく、多くなる。左側には残雪があるが深く切れており、ルートには使えない。一面のハイマツの中を下るがスピードも上がらず、脚を取られる人も出てくる。風も強く、霰が降っており、16:30 にハイマツの中に残雪が残る所で幕営することにした。少々狭いが周囲をハイマツが囲っているので風の影響は少なくまずまずの幕営地である。

5月1日(日)



ハイマツの海の中の雪田に幕営 (翌朝の写真)



大斜面を降り切った 2100m付近の残雪歩き

朝 4 時に起床。剣ヶ峰は雲の中、でも南側はうっすらと青空も見えるが傘雲もあるあまり良い天候ではなさそうだ。6 時幕場を出発、今日は長く、そしてエスケープルートはない。どれだけ残雪が残っているかにかかっている。出発の第 1 歩からハイマツである。だんだんハイマツも大きくなり背丈よりも大になる。でもハイマツの中に残雪のルートを見つけツガやダケカンバの樹林帯まで一気にいった。最初のピーク 2154m に 7:50。樹林帯の中は気持ちよく歩けたが、すぐに笹藪が出現した。



背丈以上の強烈な笹ヤブ漕ぎが延々と続く



戸蔵(とぞ)の古びた山名プレート

最初の頃は残雪もあり、よけながら歩いたが、雪がなくなると深い所では背丈を越えるやぶである。誰もが話をしなくなり、修行のような山行になっていく。8 名もいると歩行速度に違いがでてくる。この後は 2066m に 9:30、戸蔵に 15:15、と長い長い修行である。途中でタクシー会社や菅井さんに連絡を試みるが送れたかどうか確認できず。右手の山に夕陽が落ち、1904m (17:10) 辺りでヘッデン山行となった。途中からへばったメンバーも出て、パーティは長くなる。ヘッデンになると先行者が見分けやすいので後の者には楽である。19:30 なんとか野麦峠に到着した。すぐにタクシー会社に電話を入れるが通じない。スマホを変えて試みるが通じない。次の心配は山行管理である。メールを送ったが、届いたかどうか不明である。皆、疲労困憊なのでここに幕営することに決める。トイレでは水もあるので非常食を食べた。

5 月 2 日

5 時起床。藪がない安心感か、気持ちの良い朝である。遠くに高天原が見える。テントを撤収し通信のできる所へ早く下りることにする。野麦峠オートキャンプ場近くになってやっと通信ができた。タクシーを依頼し、山行管理の菅井さんに連絡、家族に連絡、やっと一安心であった。約 1 時間強で車を回収し、思い出深い山を後にした。



幕営した野麦峠の駐車場



任務を果たした達成感と安堵感



乗鞍剣ヶ峰と高天原をバックに



野麦峠から望む思い出の乗鞍連峰

【まとめ】

初日は7時間、2日目は13.5時間と長時間の藪漕ぎで、結局このルートは踏み跡、テープもないコースであった。50周年の記念山行だから行ったが、景色も無く、花などもない面白味のないコースである。メンバーの中には疲労や足ツリの症状が数名生じた。自分の体力や技量も含め、参加できるルートを選択できるようにすることも大切だと思う。とにかく、記念山行のスタートを完走できたので、参加者の皆さんにお礼を申し上げます。御苦労さまでした。

☆以下は参加者からの感想です

①加藤さん

ちば山入会以来はもちろん、今までの登山で一番きつい山行で印象に強く残ったので自分なりの記録と感想を書いてみたのでよろしかったら参考にしてください。

今回のコースは乗鞍岳山頂までは一般の登山者と同じ積雪期ルートを辿り、山頂から南東側の県境尾根を縦走し野麦峠に下るコースで当初は5月1日夕方5時頃下山予定であった。参加者はCL 橋本さん、SL 柘植さん、合計8人、4月29日夜車2台で行き、道の駅今井恵みの里で仮眠した。翌朝は晴れ、乗鞍高原の鈴蘭バスターミナルに駐車し、位ヶ原行きのバスに乗り換える。快晴であったが途中の三本滝付近は雪が全くない。登山を開始する位ヶ原も雪は例年の半分以下、肩の小屋までは順調に進む。乗鞍岳山頂付近は強風と霧、ここから一般登山道から離れてバリエーションルートに入る。山頂の大きな祠の裏側に回り、大日岳に向かって慎重に岩場を下りる。傾斜が緩み一瞬晴れたとき高天ヶ原の全容が見えた。広い鞍部を小石に足を取られ歩きにくい。丸い高天ヶ原の頂上を西側から越えて展望の良い所で大休止。下方に雪田と県境尾根の山並みが見渡せた。雷鳥の鳴き声が聞こえ雪底上につがいがあった。やがてハイマツ帯に入る。背丈位の高さのハイマツは手強く上手な人はどんどん下るが下手な人はバランスを崩してよく転ぶ。やがて左側の谷の雪底上を歩き、再びハイマツ帯に入るとテント2張分の雪田があり2500mここに泊まった。夜になると霰が降り風が強くなった。翌朝ハイマツのヤブをこいて右に雪田を見て行くと前方に岩の台地が見え雪渓が現れた。ここから傾斜が増し灌木帯となり、雪も適度にあり快適に下る。尾根が平坦になるが残雪を拾って進路を取る。ところが雪不足のため2300mで雪が無くなり笹藪が出てきた。雪田を拾って行かず尾根をGPS頼りに進むが笹は滑り何度も転ぶ。特に倒木が笹藪に隠れて乗り越えて行くときバランスを崩してしまう。小さな雪田数ヶ所で小休止。ひどい笹藪で踏み跡は全くなし。林道が見えたが地図通りに尾根伝いに行く。戸蔵1981mで記念撮影、携帯の電波は届くのでタクシー会社に電話したが、すぐ切れる。1904mピークを越えた所でヘッドランプを点ける。先行者の灯りを頼りに19:30に野麦峠に到着した。広い駐車場と清潔なトイレ、飲み水があるが、メンバーの疲労が激しく携帯も利用できないのでピバグを決めた。非常食もアルコールも充分あり快適な緊急露営であった。翌朝5:00起床、6:30出発、ハイキング道になっている旧野麦街道の歴史的遺産の石室を見たり山菜採りをしながら行く。野麦峠オート

キャンプ場手前の橋で携帯の電波が通じるようになり 7:45 山行管理に電話連絡した。キャンプ場は桜が咲き乱れアイスクリームを買い、テントを干したり、コテージを見たりして、タクシーで車を取りに行った CL と SL を待つ。10:00 に車 2 台がキャンプ場に戻り、それぞれ解散した。

我々は奈川高原渋沢温泉「仙洛」で入浴し、藪原方面へそば屋を探して車を走らせる。道の駅奈良井木曾の大橋で木造のアーチ橋を渡り、天ぷらそばを頂き奈良井宿の古い街並をそぞろ歩きする。漆器店(笹のバツタ、カエルの装飾)薬屋(百草丸)、湧き水の井戸、団子、古民家でソフトクリームを味わって帰葉した。山は大変だったが奈良井宿の観光と食事はよかったです。

②小俣さん

50 周年記念山行 2 期目のキックオフ山行に参加でき、ありがとうございました。

今年の寡雪から藪は覚悟していましたが、さらに思った以上に雪が無く長いヤブ尾根縦走になりました。高天原から見る乗鞍頂上が楽しみでしたが、残念ながら天気もあまり良くなく頂上を見ることができませんでした。野麦峠で宿泊後の朝に乗鞍岳が遠望できた時には感激しました。皆様、有難うございました。

③吉川さん

剣ヶ峰の下りで、雪のなさにびっくりし、高天ヶ原を過ぎると、黒々したハイマツ漕ぎの始まりに啞然とした。標高 2500m 付近で幕営、夜は、雪がパラパラテントをはじき、不安要素が増える。小雪の今年、豪雪地帯に先週行ったが、雪をつなげず 10 時間余り藪漕ぎをしてきたばかり、そんなことを思いまんじりと夜を明かす。早朝は、雪を繋げたものの、その後は、背丈以上の笹の藪漕ぎに喘ぎ、最後は、ヘッドと GPS に頼り下山した。ハイマツ遊泳はちょっと面白かったかな？一日中笹を掻き分けていたような・・・心の安らぐ、花も景色も目に留まらなかったような！修行の山行だった・・・が、50 周年記念山行の線を繋げた義務感と達成感は最大です。忘れえぬ山行になるでしょう。CL、SL をはじめ同行のみなさんお疲れ様でした。

④萱野さん

ほぼ雪山なのかと思い、安易に参加表明をしてしまいました。

初日後半の這松の藪コキから意気消沈、眠れぬ一夜を過ごしました。

藪こき経験が皆無の私としては、かなりの精神的苦痛を味合う羽目となりました。

もう二度とこんなところ来るもんか！と...

ちば山へ入会した当時の自分だったら、行き倒れていたかもしれません。

自分の成長を確認できたし、自分に足りない物も色々と見えてきた修行山行でした。

日本横断のルート最難路ですよね。恐るべし、ちば山でした。